

| | | |
|----------------------------|---|------------------|
| 開講科目名 / Course | 発達心理学 | |
| ターム・学期 / Term・Semester | 2024年度 / Academic Year 2 学期 / Second | |
| 開講区分 / semester offered | 2 学期 / Second | |
| 単位数 / Credits | 1.0 | |
| 学年 / Year | 2,4 | |
| 主担当教員 / Main Instructor | 吉村 匠平 | |
| 担当教員名 / Instructor | 吉村 匠平 | |
| 必修・選択 / compulsory subject | 選択 | |
| 講義形態 / Class Type | 講義 | |
| 授業回数 | 8 | |
| 科目の目的と概要 | 発達を、進化、環境、遺伝という視点から複合的に理解する枠組みに沿って、言語、運動、認知機能、アタッチメント行動などの発達の過程について学ぶことで、発達という概念を相対化する態度を養う。 変化、発達、成長が最も顕著である乳幼児期の発達を中心に扱う。内容によっては、児童の発達も併せて扱う。 | |
| 到達目標 | 1. 進化という視点から、種の発達プロセスを概観し、発達を進化の所産として説明する。 2. 進化という視点から、人間の発達に関する事象を説明する。 3. ヒトの発達プロセスを理解・説明するために必要な心理学の概念と知識を修得する。 | |
| DPとの対応 | 1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、6.探求心と創造力 | |
| 授業計画 | 01. 乳児期の言語発達：言語発達に不可欠なのは？ 02. 乳児期の運動発達：随意運動の発達と原始反射 03. ヒトの進化の所産としての「生理的な早産」、乳歯、大泉門、原始反射 04. ヒトの育児戦略：アロマザリング 05. 育てられるものに埋め込まれた生依存戦略：アタッチメント行動の発達 06. しょうがいのシステム論的な理解：ICFモデル 07. ディスレクシアのシステム論的な理解 08. 自閉スペクトラム症のシステム論的な理解 | |
| その他の授業の工夫 | 座席は講義開始時にくじを引いて決定する。講義はペアワークを中心に展開する。 | |
| 時間外学修 | ・事前課題（指定された動画を視聴し、講義開始時に理解度確認テストを実施）を課す（6h） ・事後課題（与えられた課題に100文字程度で応える、講義内容を踏まえた展開課題）を課す（12h） ・事後課題（掲示板システムへの投稿、授業内容への疑問、意見、学生相互のコメントなど）（4h） | |
| 評価方法と評価割合 | 期末試験は実施しない。事前課題の小テスト（4点/回）、講義内容の要約課題（4点/回）、授業を受けてのコメント（3点/回）、授業での発表、時間外学習課題の得点を8回分集計して評価する。講義を欠席したものは、その回に課された全ての課題を提出することができない。単位認定の方法について、初回にプリントを配布し説明するので、出席すること。 | |
| テキスト | テキストは指定しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。 | |
| 参考書 | 進化心理学入門（新曜社） 進化と人間行動（東京大学出版会） | |
| 履修する上で必要な要件 | この講義は必修の授業ではありません。再試験実施の予定はないので注意してください。受講希望者が多い場合は、受講者の制限を行う可能性があります。 | |
| その他 | 学校で頻繁に観察される事象を用いて、課題を構成したり、例示を行う。 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 | 有 |
| | 内容 | 吉村匠平：公認心理士、学校心理士 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | 有・無 | 無 |
| | 内容 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校場面で観察される「不適応とされがちな」行動を、事例として紹介する。 | |